



ひきも絶えぬ参詣者の列（住吉神社太鼓橋一住田隆氏撮す）

恒例の昭和五十五年賀詞交換会は、一月十七日大阪梅田の新阪急ホテルで開催されました。やむを得ぬご事情で、ご欠席の方もありましたので簡単にご報告いたします。

同日は午後六時、二階の間に六十名余のご参会者が集り、まず菅本理事長の挨拶（別掲）で開会しました。

会の小川会長の音頭で、力強く乾杯、華やかに開宴いたしました。

取巻く環境が厳しいだけ

たしまして、

会員、登録業者および報道関係の紹介があり、一同拍手で歓迎し、来賓を代表して、日板野田取締役から祝いと励ましのスピーチをいたしました。

ただ、近畿ダクト工業協

年の特徴かも知れません。

しかし、そこはそれ視界

が不透明なればこそ一層、

団結を強化し、連帯と扶助

を高めるべく、宴がもり上

れば期せずして、自慢の喉

を競い合い、マイクの奪い

合いに司会者はその調整に

苦笑の一幕もありました。

予定の八時に広田商事の広

田氏の音頭で万才を三唱し

て、一九八〇年のスタート

本鉄板KK。鰐大塙。ダクト

れば期せずして、自慢の喉

を競い合い、マイクの奪い

合いに司会者はその調整に

苦笑の一幕もありました。

予定の八時に広田商事の広





